

ナイキの靴を買ったけど、全然走
れていない川崎先生。頼痛いし。

◇第 4 支会小学校陸上記録会に想う◇

次の日の朝、6 年生が校長室にやってきた。そしてこう言った。「全員が自己ベストを更新しました。ありがとうございました」。なんと素晴らしい事か。その晴れ晴れとした顔は、この上なくさわやかに見えた。

スポーツには勝敗があり順位がある。だけど、それがすべてだとしたら、誰しも世界 No.1 に君臨し続けなければならない。しかし、かのウサイン・ボルトですら負けもあり失格もある。スポーツの世界は、勝つこと、成長を楽しむことと同じくらい、負けを受け止めること、くやしき辛さを自分の成長の糧にすることが大切なのだと思う。

私は思う。人間の一番の才能は「努力できること」だと。この才能があればこそ、たとえいくつになろうがスポーツを楽しむ心を持ち続けることができる。

“ナイスラン” “ナイスジャンプ” “ナイススロー” と応援者は言う。これを素直に受け止め満足感を持つなら、それは大切なことだ。十分に努力した成果だからだ。しかし“そうじゃない” “自分は悔しい” という思いも一方にはあっていい。そしてこの気持ちも次への貴重な財産になるからだ。

それぞれがそれぞれの想いを持つスポーツの世界。すべては人としての成長のため。

◇なんか今朝は違う◇

秋晴れの下、毎日毎日登校してくる子どもたち。でも今日は何か違う。何が違うのだろうか？としばし考える。。。。。

子どもたちにも子どもたちの生活があり、褒められて良い気分で登校する子もいれば、怒られて意気消沈して登校する子もいるだろう。そのすべての気持ちが表情や声に表れる。今日はみんないいことあったのかな？足取りが軽く表情が晴れやかだ。大人ですら様々な人間関係の中で浮き沈みを繰り返しているのだから、子どもならなおさら些細なことで気持ちが上下するのだろう。

そんな十人十色の子ども姿をたまらなく愛おしく思う。自分がこの学校の校長として、今ここに立っていることが幸せだと感じる。秋だからセンチメンタルになっているのだろうか。そんな歳でもなかりょうに。。。。。

それはそうと、この時期になると毎朝早くきた子どもたちが、誰彼なくほうきを持ち出して落ち葉を掃いてくれる。これが毎朝繰り返される西小の当たり前。これを見るだけでもこの場にいる喜びを感じる。あー、永遠に続いてほしい西小の宝。

◇気になる事。。。◇

- ・毎朝のようにつなぎを着て自転車で上に向かって登っていく人。一体誰で、どこに行くのだろうか？ちょっと聞けないし。でも気になるし。
- ・今朝は二人の外国人の方が上から走って下ってきた。はて？
- ・哲学的になってしまいうけど、本当の自分ってどれ？って思う時ありません？いいやつじゃないけど、さりとて悪者でもなく、強くないけど弱いわけでもない。お前は何者？って、ときどき一人酒をしながら考えている自分がいるけど、これって正常ですか？